

(様式第1号)

第10期 第6回 芦屋市環境づくり推進会議 会議録

日 時	平成30年6月22日(金) 10:00~12:00
場 所	芦屋市役所北館3階 ミーティングルーム2
出席者	会 長 長井 彦一郎 副会長 池 内 清 委 員 浦川 朋子 委 員 大脇 巧己 委 員 佐藤 洋子 委 員 半田 孝 委 員 船山 静夏 委 員 松原 洋子 委 員 森田 昭弘 委 員 北尾 文孝 欠席委員 田中 理生 事務局 米村 昌純 事務局 岡本 祐子 事務局 横田 愛里
事務局	環境課
会議の公開	■ 公 開
傍聴者数	0 名

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議事

ア 第10期芦屋市環境づくり推進会議の活動(イベント)内容検討

(3)その他

・次回(第7回)日程

月 日() 9時30分 ~11時30分

(4) 閉会

2 提出資料

会議次第

資料①第10期行動テーマについて

3 会議経過

事務局 定刻となりましたので、ただいまから第6回芦屋市環境づくり推進会議を開催させていただきます。それでは長井会長、会議の進行をお願いします。

会長 おはようございます。今日は人数が揃っていますね。それではまず、議事に入ります前に、事務局から委員の出席状況の報告をお願いします。

事務局 委員11名中、本日10名がご出席でございます。半数以上の出席をいただいておりますので、本会議は成立しております。

会長 ありがとうございます。本日傍聴の方はいらっしゃいますか。

事務局 傍聴の方はいらっしゃいません。

会長 ありがとうございます。それでは議事に入ります。次第にしたがって第10期行動テーマについて事務局から説明をお願いいたします。

事務局 10期の行動テーマにつきまして、前回決定いたしました事項の報告も踏まえまして説明いたします。

(資料確認)

では、報告に入らせていただきます。資料①と合わせてご覧ください。始めに、前回の会議で決定いたしました内容について報告いたします。二つ目に環境作文についてです。作文のテーマは昨年と同様で、「毎日の暮らしから考える身近な環境活動」「夏休み出会った自然」「芦屋の環境を大切にするために、私たちが出来ること」の三つになります。アンケートや応募資格においても去年と同様になりました。賞につきましては、表彰状と記念品を渡すということに変わりはありませんが、人数に関しましては応募状況次第ということになりました。二つ目にポスター展についてです。テーマは、環境施設課が募集している例年通りのテーマで募集いたします。審査対象につきましては、ポスター展は小学生と中学生どちらもということになりました。賞は、環境づくり推進会議賞というもので2000円、人数は作文同様に、応募状況次第ということになりました。環境施設課が小学生に渡している応募用紙には、若干名ということで記載しております。審査方法につきましては、10月中旬ごろに委員の皆様へ審査いただくということで、環境処理センターの見学も兼ねて行くことになりました。前回の決定事項につきましては以上となります。

次に2の今回の検討事項をご覧ください。報告会や環境作文、ポスター展とは別に、10期として実施するイベントについて今日話し合っていたきたいと思います。前回の会議まであげられた大まかな内容は、記載してある通りです。2月に環境活動報告会があります

ので、その際に何か実績報告のような成果を報告出来ればと思っておりますので、よろしく
お願いいたします。以上です。

会 長 ありがとうございます。

前回の決定事項は環境作文について、6月には学校教育課へ依頼しまして、7月に配布予
定としております。作文のテーマは皆さんご存知のとおり、昨年度と同様に三つありまして
「毎日のくらしから考える身近な環境活動」「夏休みに出会った自然」「芦屋の環境を大切
にするために、私たちができること」です。アンケートも昨年と同様です。ここにあります
作文コンクールの案内の内容で、変更があると聞いていますが。

事 務 局 変更した点は、テーマの①[毎日のくらしから考える身近な環境]となっていたのを[環
境活動]にしています。②の例えばの三つ目に入っている[自然とのふれあい体験]が、
元々は①にあったのですが、②になっています。③の[芦屋の環境を大切にするために、私
たちができること]も、元々は[芦屋を大切にするために]となっていたのを[環境]とい
う言葉を入れています。

下の応募のしかたと書いてあるところも、難しい言葉を簡単に、小学生が読んでも分かる
ような形にしています。

アンケートの中は、問2の2番目、元々は[エアコンは冷えすぎないように、暖めすぎな
いように必要な時だけつける]となっていたのを[設定温度に気をつける]という言葉に変え
させていただきます。

最後のページの別紙のところも[保護者の方へ]という言葉を入れました。また[下記必
要事項ならびに裏面のアンケート解答欄を]となっていたのを[下の空欄および裏面の回答
欄を]と変えさせていただきました。[お名前]と書いているところも、元々は[氏名]に
なりましたが、[お名前]という形にしています。[住所]も、元々[芦屋市]と書い
てありましたが、芦屋に通学していて、芦屋に住んでいない方も応募条件を満たすので、
[芦屋市]というのをなくしています。この点が修正したところです。

会 長 ここまでで皆さん、何か質問、ご意見はありませんか。応募資格ですが、芦屋市以外に
在住する小学生、芦屋市内の学校に通学する小学生とありますので、一般の地域の方にも参
加、アンケートが出来るように変えてあります。基本的には昨年とほぼ同様です。昨年度の
実績として、記念品の図書カードを最優秀賞は2000円、優秀賞が1000円、佳作50
0円ということを記載しています。

事 務 局 今年の作文コンクールの賞の人数は、応募状況次第ということに前回の会議でなりました
が、昨年は、最優秀賞1名、優秀賞は6名でした。

副 会 長 前は人数も少なかったのですが、作品すべてを賞に入れてしまいました。多ければそうは

いけないと思います。人数が多ければ、簡単な参加賞を付けてあげてもいいかなと思います。我々がよくやっているのは、押し花のしおりを作り、3枚くらいをセットにして参加賞として渡しています。

森田委員 イベントの趣旨としては、むしろそういうものの方がいいような気がしますね。

副会長 人数にもよりますが、それでしたら全員に配れると思います。

会長 そのあたりもう少し意見をお願いいたします。
次に、ポスター展の審査方法についてです。

事務局 ポスター展は環境施設課と一緒にやるので、環境施設課が取りまとめてやる中に、環境推進会議賞というのをに入れていただいて、記念品として環境推進会議賞は2000円の図書券をお渡しします。

森田委員 この太字のテーマ「環境問題・ごみの減量化・市民マナー」の環境問題という中には自然保護的なことも入ってくると思いますが、その下の具体例の中には入っていないんですね。今回はもう案内を出してしまっていて間に合わないので、今回はそういう自然保護、難しい言い方をしたら環境保全という言葉も入れていただいた方がいいと思います。

会長 ポスター展というのは、推進会議が主体で行う作文コンクールとは違い、環境施設課が主体で行い、推進会議としては何も手を加えることなく進めていただけるという事でしたよね。

事務局 応募期限は9月14日となっており、応募作品は、環境施設課に集まります。前回の話の中で賞を決められるのは、環境施設課は美術の先生にお願いされているのですが、環境推進会議賞は環境推進会議の委員のみなさまで決めていただくということになりました。作品が集まった10月くらいに（処理センターへ）行っていただいて、施設の見学と合わせて審査をしていただくこととなります。

森田委員 集まるころまでは、環境施設課になります。我々は、集まった絵を見に行き、審査・表彰を行うだけです。場所は環境処理センターなので浜風町になります。

北尾委員 いつも何枚くらい集まるのですか。

森田委員 600～700枚くらいです。美術の先生が、ある程度仕分けをされていたと思います。

北尾委員 700枚をみんなで分けていったん一人ひとり選んで、見ていく感じになるんですかね。

森田委員 環境施設課の審査は、元図工の先生なので、美術的な視点でされます。テーマについてではなく、700枚の中で美術的な視点でふるいにかけられ、その中から我々はテーマにあったもの選べばいいと思います。

環境施設課の入賞作品は、市役所のロビーに展示しますが、推進会議で審査しようとしている10月中旬は環境施設課の審査が終わったところなので、会議室に並べてあります。

大脇委員 入賞作品はどれぐらいに毎年絞られていますか？

事務局 環境施設課の入賞作品は、小学生が特選2名、入選16名、中学生が特選2名、入選6名。小学生が18人、中学生が8人です。

森田委員 その作品とは、かぶらないようにした方がいいでしょうね。

事務局 環境施設課の記念品は、特選が3000円で賞状と図書券3000円、入選が賞状と図書券1000円、環境推進会議賞が賞状と図書券2000円です。

森田委員 環境施設課は参加賞としてエコバッグとか啓発グッズ的なものを全員に渡しています。

会長 ここまでで何か質問等ないでしょうか。

パンフレット等は、もう刷ってしまっているので修正はできませんが、当日の賞であるとか、何かその時に兼ねて出来ることがあれば。ポスター展に来られた方々に、賞だけではなく、何かほかに伝えるものがあれば、その時に我々の方から環境について子ども達や親御さんに伝えられたら、せっかく集まるのだからチャンスになるかなと思います。

副会長 ポスター展の賞の発表とか表彰はどこでどのように行われますか。

森田委員 ポスター展の表彰は、特に表彰式みたいなものはなく、入賞作品を市役所ロビーに展示します。去年は、市役所ロビーで展示しているのを、ジェイコムが取材に来て放映されました。市の広報チャンネルとは別だったと思うので、今年も同じように取材に来てくれたら、去年は環境施設課が対応しましたが、そこで一緒に推進会議での取り組みの趣旨をPRする機会になると思います。もし取材に来てなかったらこちらからやりますと連絡してもいいと思います。

会長 我々も参加して環境推進会議のアピールが出来れば良いと思っています。

事務局 2月の表彰とは別に、するということですか？

会長 そうですね。できたらいいな、と思います。

副会長 作文と一緒に（2月の報告会で）展示するというのは、難しいような気がします。環境施設課がやっているのは、同じテーマの環境ということですから、その時一緒に展示してもらえばいいと思います。その中で推進会議賞も展示していますから、例えば、少しスペースを設けて推進会議というのがあり、こんな活動をしていますと説明を一緒に入れてもらうとか出来ると思います。

大脇委員 実際そのようなスペースがあれば、ちょっとした活動紹介みたいなもの、2月にはこんなことをやりますとか案内をしてもらえたら嬉しいと思いますが、やはり主導が我々ではないので、スペースが足りないのであれば仕方がないかなと思います。

森田委員 施設課の固有の事業ではなく、啓発のための事業なので、そこは施設課と話をしながらできますし、今ご提案のあったようなPRは出来ると思います。スペース的にも、そんなにたくさん使っていません。ついたてを両面使ってやっていますし、壁もまだ使えます。例えば、少し前までやっていた平和展で、大阪空襲のパネル等を展示していましたが、窓際の机の上で署名コーナーを設けたりしていましたので、そのような形のもは十分可能だと思います。昨年、初めて見ましたが、余裕がありすぎて寂しかったので、推進会議賞のポスターが入ったらちょうどいいと思います。

会長 見に来られる方は、たくさんいらっしゃるのですか。

森田委員 入選された方は親子で来られますし、人がいつもおられるわけではないけれど、平和展でも、そういうのを展示しているとその資料をくださいとか来られたりしていました。極めて特殊な例ですけども、たまたま大阪の高槻市長さんだったかと思いますが、別の用事で市役所に来られていまして、平和展の前を通られた際、うちもやりたいと問い合わせがありました。

会長 絵に関係ない方も来られているので、環境推進会議の取り組みも一般の方に見ていただけるということですね。

森田委員 常にそこが人でにぎわっているという感じではないのですが、色んな方が目に留めてくださっているようです。

副会長 コーナー的にはあの隅の狭いところで、それを見に来られるというのは少ないと思います。

来庁のついでに前を通りかかって見て行こうかという方が多いように思います。その時に推進会議をアピールしようと思ったら、小さなペンダントみたいな手作りのものを景品みたいに好きにお取りくださいと置いておき、そこに例えば来年2月にこんなことやりますよと書いたメモを置いて、それを持ち帰ってくれたらそれが宣伝になると思います。

森田委員 先ほどの参加賞もそのような話がありましたが、他にも色々な取り組みをされている団体さんがいらっしゃると思いますので、提供しますと言ってくださるところがあれば、色々なものを集めて様々な機会に使えると思います。

副会長 はい。そのようなことで、横につながる機会が持てればいいと思います。

会長 ここまで何かありませんか。それでは今回検討事項に入らせていただきます。報告会や環境作文とは別のイベントについて、検討していきたいと思います。前回までに出た意見ですが、芦屋の観察コースの設定、芦屋市内での環境活動報告を発信する、実験観察会、芦屋川のツルヨシを減らす、こういったことが前回出てきたと思いますが、この辺を検討していきたいと思います。まず芦屋の自然観察コースの設定ですね。

副会長 そのコースを設定するのが、いいのか悪いのかもまだ何も決まっていませんので、一例としてこんなのを試してみてもどうかという意見だと思います。

会長 これは市民の方も集まって、観察しようというものですか。

副会長 私が考えているのは、芦屋市の方から、こんないいコースがありますよと推薦コースとしてどこかに公表してもらえたらと思います。後は市民の方に自由に観察をしてもらって。時には、市の方が主導で観察コースを推奨コースとして市民の方にお知らせするのがいいかなと思っています。

会長 今回の検討事項というのは、我々がこの任期の中で作文コンクールだけではなく、何か残してというイベントを他にしようか、という事から案が入ってきたと思うので。その中の一つが観察コースですね、そのようなものを芦屋市の方から発信して、環境づくり推進会議から発信していこうということが一つ、ということですね。

大脇委員 去年か一昨年に、「芦屋歩記」というものが出て、その中にお勧めの散策コースと言うことで出来ているのですが、どちらかというと商業活性化が目的で、街歩きのような感じになっています。その中にハイキングコースが3コースあるのですが、新しく自然を楽しめるようなコースをつくってもいいのかな、と思います。

副会長 話は少し変わりますが、芦屋市から、西宮の環境保全協会の方へ、芦屋の生物の調査依頼をされましたか。

事務局 今調整しています。内容などについて。

副会長 ちょうど活動しているときに、芦屋市の自然保護協会の方とお会いし、古市先生も交えて今こんなやっていますよという話を聞いたので。

事務局 昨年はイモリ池の辺りを特化してやっていただいたので、そこは冊子にまとめようと思っています。

副会長 イモリ池は少し気になっているのですが、状況は分かりますか。持ち主の生コン組合さんが手放すというお話を聞いたのですが。

事務局 持ち主の企業さんへは、お電話はさせていただいていますが、まだ何も決まっていないというお答えしかいただいていません。

副会長 あそこはぜひ残して欲しいところなので、本当はもっと芦屋市として保全活動に力を入れて欲しいところですが。奥池のところであり、サギスゲはもうここしか残ってなくて、生息している最南端になるんです。一応柵をして鍵をかけて保護をしていますが。あの辺りは、昔は本当に小さな1円玉くらいの大きさのハッチョウトンボがいたのですが、今はもういなくなってしまったので、そういうものが戻ってこれるような環境になればいいと思います。奥池は、どんどん開発が進んでいて、状況がどんどん変わっているのが心配です。

会長 この推進会議で以前、そこにスポットを当てて古市先生を筆頭に見学、観察に行ったのですが、芦屋市で唯一の湿地帯で、非常に珍しい環境の場所で、そこにしか生息できない植物や昆虫が集まる場所だそうで、今の土地の所有者である企業さんが、そこは触らないという事で環境維持できていたのですが、その企業さんが手放すかもしれないという事になっているようで、何とか環境を維持できないかと。我々としても何か協力、手助けが出来ればいいと思います。

副会長 それこそ三番目にあがっている観察会を設定して、市民の方にも積極的に紹介して保護していくバックアップの対象になっていけばいいと思います。

会長 逆に宣伝してしまっただけで、荒らされるというのもちょっと心配ですけども。

副会長 芦屋の自然とかで紹介していますけど、あまり知ってもらえていないので、まず知っても

らうことからだと思います。荒らされるのは、また別問題かと。

会 長 他にもいろいろあるのですが、二つ目にある芦屋市内での環境活動情報を少しでも提供できないかなと思います。あるいは、その下の実験観察会では市民の方も一緒に自然観察会をイベントをして、以前の推進会議でも何回かしたことがあります。子ども達や親御さん等を集めて、環境についてのフィールドで植物や動物、昆虫等を採取し、採取したものが外来種なのか外来種なのかということと一緒に見ていきました。保全について、どう感じてもらうか、こうしていかなければならないというのを考える機会を提供する事もひとつだと思います。

それから芦屋川のツルヨシですが、ツルヨシがあまりにも多すぎると、自然のバランスが崩れて悪影響を及ぼしてしまうという場合もありますので、そのあたりも分かっていたくような活動をやろう、というのもひとつだと思います。

副 会 長 (芦屋森の会 2001 の活動紹介)

(東おたふく山に関する活動紹介)

ツルヨシに関しては、今、背丈2メートルをはるかに超えています。だからもう人が入るのはちょっとできない状態です。水辺で楽しめるという環境というのを再生したいなと思います。それに関しては、市民みんなが参加してもらって、ツルヨシを刈ってもらって、そのツルヨシで何かを作ったりできたらいいなとも思います。そんな展開の仕方もあるかな、と思います。それが提案なんです。

会 長 前回までの活動内容は、冊子にもなっていますので見ていただければ知っていただけるかと思います。

前期は、我々の役目は、イベントもいいが、いろんなところから集まった推進会議の委員さんなので、それを最大限生かして、つながりを持てるような何かが出来たらと思います。前回の作文コンクールもそうだったのですが、フィールド活動もいいのですが、フィールド活動以外にも各団体さんをお呼びして活動報告をしていただいて、交流、横のつながりを持っていただくようなしくみを、我々推進会議が作ろうということで前期の活動に至った訳です。もちろんそれをしつつ、フィールド活動もするという方法もあるので、つながりを作るだけではないと思います。そのあたりも意見をいただいて、今後の活動を進めていきたいと思っています。

森田委員 そのことに関しまして、昨日まで市議会の一般質問が行われておりまして、まさにそのやり取りがございました。もともと、質問は芦屋川のツルヨシに関してで、芦屋川の河川管理は基本的に県にありますので、市は委託を受けて年に2回草刈りをしています、というお話

なのですが。

環境課は環境課で市全域の環境保全を担っていて、下水道課との分担について聞かれたのですが、環境課の活動が見えないというご指摘をいただいております。そこで私は、この推進会議のことを言いました。この会議を中心に進めていっております、去年は初の試みとして市内で環境活動をされている団体さんと呼んで開きましたということを伝えました。

報告会だけでなく、市民の方々と保全をおこなっていくように、言われました。それはそうだと思います。行政だけでは出来ませんし、立派な活動をされているグループと協力して、一緒にできるならそれに越したことはございませんし、広げていって、より良いものにできたら良いかと思えます。

例えば、先ほどのいもり池のお話ですが、もし持ち主が変わって良くない方向にいつてしまえば、ストップをかけるためには市民の皆様、大勢の声が無いと推進会議だけ、あるいは行政だけで声を上げていても、数は力ですので一定のまとまりがないといけません。そのような起爆剤になるような取り組みがこちらで出来たら、という気がしています。

大脇委員 自然というのは、少し入っていないとなかなか本当の物に触れられないので、一步が踏み出せない市民が多いのではないかと思います。そう考えると市民の力を借りるためには、ある程度インパクトのある、身近にあるものの方がいいと思います。そう考えると今回の芦屋川のツルヨシをひとつのテーマにするというのは、それこそ小学生でも家族でも見に来て参加できるので、一步を踏み出すきっかけとしてはいいのではないかと思います。

参加する環境団体も、芦屋市として実験的にやるので参加してくれませんかと言掛けをしてもらったら、かなりの団体が参加してくれるのではないかと思いますので、試しに一度やってみる価値はあるのではないかと思います。

浦川委員 取り組みやすそうですね。

北尾委員 刈る時期は、いつがいいのでしょうか。

副会長 今が一番成長の早い時期です。伸びきったところで、まず刈ると良いかと思えます。ツルヨシは下に根があるのですが、根のエネルギーを使って、芽を出してきます。それが大きくなると葉が茂ってきて、その葉が光合成をして栄養を蓄えていく時期に入ります。ここで刈ると、新しく栄養を得られないので、蓄えていたものでまた根を出してきます。そうすると、蓄えがどんどん減っていきます。なので、蓄えないように刈るのもひとつです。根に蓄えて太ってから手足の枯れたものだけを刈っても何にも解消にはならないので、伸びていく夏場に一回くらい刈るのが一番いいと思います。

浦川委員 芦屋市はいつも年末に、芦屋川を業者さんが刈っているのですが、あの時期でないといけ

ないのですか。

会 長 あのと時期に刈ると、次の春までは綺麗な状態が長続きするからだと思います。

浦川委員 機械で一気に刈ることはできないのでしょうか。なぜ鎌で刈るのか分かりませんが…

副 会 長 基本的に全面刈ってしまう必要があるかどうかは、また別問題で、景観の問題もあります。景観としてツルヨシ＝芦屋＝葦のイメージが残っているのはいいかなと思いますが、今みたいに、全面にはびこってしまって人が入れないような状態はあまりよくないなと思います。機械で一気に刈ってもらってもいいですが、市民が綺麗なところで遊ぶだけでなく、自然を刈り取りながらその下に唐草が生えているのを見つけたり、その陰の中に虫を発見したりとか、自然と触れ合える機会を持つという考えもあります。

会 長 私は造園業者なのですが、最近春が短いように思います。気温が急に高くなって、成長も早いので、伸びている期間も長く見えていますね。

浦川委員 ツルヨシを刈って、そこで生活している動物がいると聞いたのですが。

副 会 長 大きい生き物は、ヌートリアといいます。外来種なので本来、駆除すべき動物になります。

大脇委員 人が手を付けないと、本当の意味での自然を維持できない。そのままにしていると、違う自然が生まれてしまうことになります。

会 長 そのような今までの話を踏まえて、どのような方向でいきましょう。何かするのであれば早いうちから進めていかないと、時間の関係もありますので。活動の機関としては、あと1年ありますので、来年に向けての準備でもいいかなと思います。

副 会 長 具体的な活動は会長が言われたように、次年度でもいいかと思います。それまでに団体さんへ声をかけて、実際に活動できるように。

大脇委員 芦屋川のツルヨシの話はやりたいなと思っているのですが、そのもう一つの理由は、我々だけは積極的にやるのが難しいと思うので、もうすでにやってくさっている団体さんがあるので、そこに我々が協力というか、基本的にはその人たちをバックアップ、もしくは情報発信を我々がするような形をとれば負担がかからず、なおかつ効果は大きいと思います。

逆に市も一緒になって実験としてまずやりますということだと、いろいろな人が来やすくなって、そういう意味でもこの趣旨にも合ってくると思います。

森田委員 これまでの話の流れで行くとツルヨシ、芦屋川が今年のテーマかなという感じがしますね。恐らく、とっつきやすくても声もかけやすいでしょうし、そこからいろんなことが分かってくるかなという気がします。

会 長 もし、ツルヨシを刈るのであれば、刈るタイミングもあるので、今期するのであれば急がないと間に合わないですが、どういたしますか。

副 会 長 今回は、試しに少しくらい刈ってもいいのではないのでしょうか。

大脇委員 全体で募集までは非常に厳しいそうですね。まずは、自分たちが体験してからというのがいいと思います。来年は、それをもとに募集も早くからする、というようにして。

森田委員 とりあえず我々もまずどんなものか体験してみないと、課題も分かりませんしね。

会 長 今の皆さんの意見も踏まえて、周りにも声をかけて、身近なところから一度やってみるという方向でよろしいですか。次回の推進会議は7月末か8月の頭になろうかと思えます。

事 務 局 あと1点、下水道課に刈ったツルヨシは処分まできちんと行うように言われています。

会 長 もしよければうちがパッカーを持ってきますので。

事 務 局 16日の週か23日の週で。午前中の時間帯で9:30から10時の時間の中でよろしいですか。雨天の場合はこの日というように2日くらいを設定させていただく形にします。またメールでご案内させていただきます。

会 長 全体を通して、意見、ご質問はありませんか。次回はツルヨシを刈るという事でよろしく願いいたします。
これをもちまして、第6回環境づくり推進会議を終了させていただきます。お疲れ様でした。